

# 洪水編

## ●洪水ハザードマップとは

洪水ハザードマップとは、洪水時に住民の皆様が円滑に避難できるよう、洪水浸水想定区域図※<sup>1</sup> をもとに、河川がはん濫した場合に浸水が想定される区域や、その際の避難場所等を示したものです。

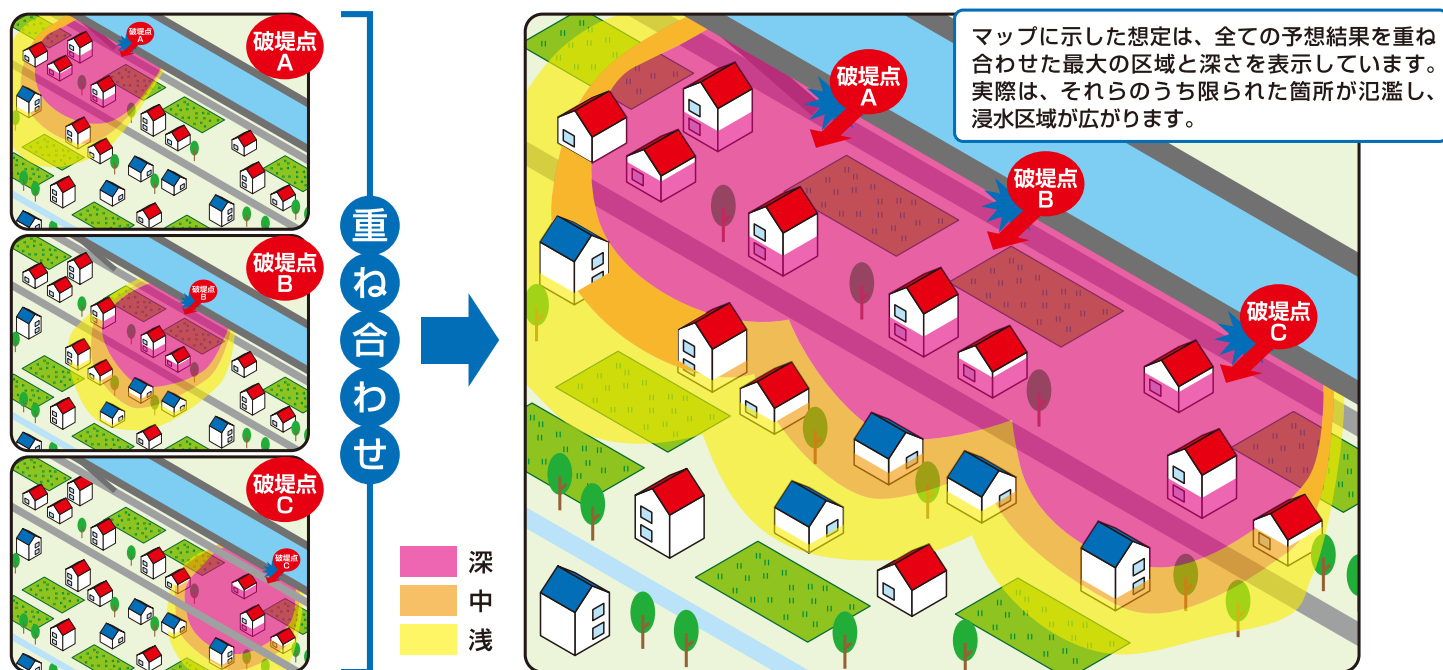
各戸に配布した洪水ハザードマップは想定し得る最大規模の降雨※<sup>2</sup> が降った場合に、浸水が発生する地域とその深さがどの程度になるかシミュレーションした結果を表しています。

※<sup>1</sup> 洪水浸水想定区域とは、洪水により相当な損害が生じる恐れのある、県が指定した河川について、洪水時の円滑かつ迅速な避難を確保し、又は浸水を防止することにより、水害による被害の軽減を図るため、当該河川が氾濫した場合に浸水が想定される区域を指定したものです。

※<sup>2</sup> 想定し得る最大規模の降雨とは、およそ 1000 年に 1 度の大雨を表しています。

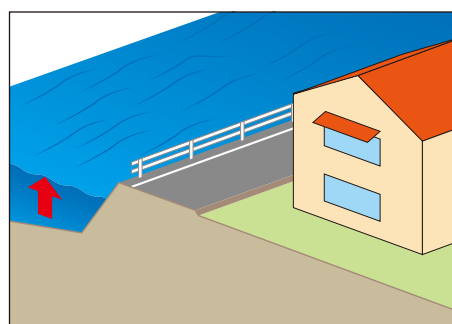
## ●洪水浸水想定区域の考え方

全ての破堤点（堤防が決壊すると想定した箇所）について、どう氾濫し浸水するかそれぞれの箇所で氾濫解析シミュレーションを行い予想します。

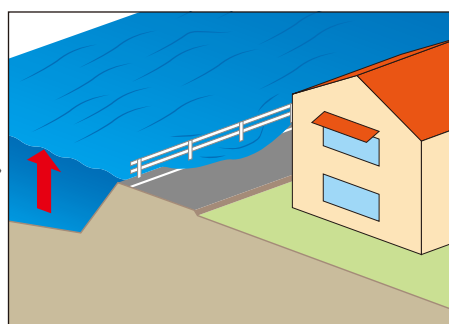


## ●洪水発生メカニズム

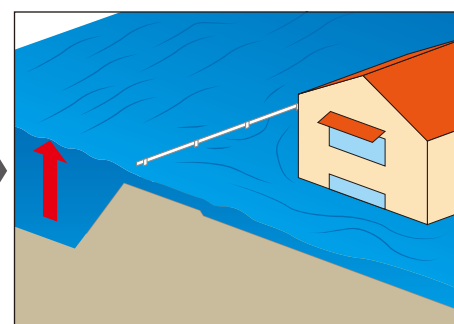
洪水には、大雨により水路や下水道などで排水しきれなくなることで起こる内水氾濫と、川の堤防が壊れたり、堤防から水が溢れることで起こる外水氾濫があります。上牧町では、堤防から水が溢れること（越水）によって洪水が発生するおそれがあります。



大雨によって川の水かさが増え始めます。



水かさが増え、堤防の高さを越え、水があふれ出します。



あふれ出した水が住宅地に流れ込み、浸水被害が発生するおそれがあります。

## ● 浸水が想定される区域における避難行動

### ハザードマップの凡例

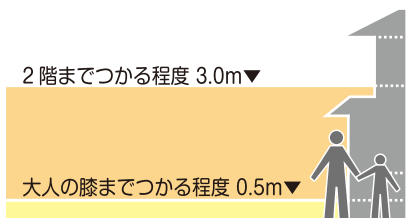
### 避難行動



早期の立退き避難が  
必要な区域

家屋倒壊等氾濫想定区域

家屋が倒壊するような河岸侵食の発生するおそれがあることから、**早期の立退き避難**が必要です。



【浸水した場合に想定される水深】

- 0.5m～3.0m
- 0.5m未満

浸水想定区域  
(想定最大規模)

床上浸水または床下浸水が想定されることから、立退き避難が望ましい。浸水時に想定される状況によっては、自らの判断により屋内にて安全を確保してください。

浸水想定区域外

浸水想定区域内の住民等が避難してくるため、避難の手助けを行ってください。

✓ 避難行動や避難のタイミングは、個々人がおかれた状況によりそれぞれ異なることに注意してください。

## 家屋倒壊等氾濫想定区域とは


「家屋倒壊等氾濫想定区域」は、堤防沿いの地域等において、洪水時に家屋が倒壊するような激しい氾濫流等が発生するおそれが高い区域です。この区域では、洪水時には避難勧告等に従って安全な場所に確実に立退く必要があります。したがって、洪水ハザードマップに記載した「早期の立退き避難が必要な区域」は、この区域も考慮して設定されています。

「家屋倒壊等氾濫想定区域」は、一定の仮定を与えて算定していることから、その区域の境界は厳密ではなく、あくまで目安であることに留意してください。具体的な区域の算定にあたっての仮定は、以下のとおりです。

- 想定している洪水は、その川で生じうる最大規模の洪水であり、その洪水により堤防が決壊して氾濫が発生することとしています。
- 堤防はどの地点で決壊するか分からないことから、各地点で決壊した場合の計算結果を包絡した区域としています。
- 倒壊等する家屋は直接基礎の標準的な木造家屋を想定しています。
- 堤防決壊に伴う激しい流れによる家屋の流失、深い浸水に伴い家屋にかかる力が增大して生じる倒壊、河岸侵食に伴う家屋の基礎を支える地盤の流失を想定しています。
- 堤防の宅地側には家屋がない更地の状態で氾濫計算をしています。

このため、例えば氾濫流による家屋倒壊等氾濫想定区域にある頑強な高層のビルに関しては、倒壊等の恐れは低いため、ただちに立退き避難が必要との判断にはならない場合もあります。

## ●避難情報と警戒レベル

警戒レベル	避難行動・避難情報など
<p><b>5</b></p> 	<p><b>緊急安全確保</b>  <b>命の危険 直ちに安全確保</b></p> <p>※1 市町村が災害の状況を確実に把握できるものではない等の理由から、警戒レベル5は、必ず発令される情報ではありません。</p>

**避難指示（警戒レベル4）までに必ず避難！！**

<p><b>4</b></p> 	<p><b>避難指示</b>  <b>危険な場所から全員避難</b></p> <p>※2 避難指示は、これまでの避難勧告のタイミングで発令されます。</p>
<p><b>3</b></p> 	<p><b>高齢者等避難</b>  <b>危険な場所から高齢者等は避難</b></p> <p>※3 警戒レベル3は、高齢者以外の人も必要に応じ、普段の行動を見合わせ始めたり危険を感じたら自主的に避難を始めるタイミングです。</p>
<p><b>2</b></p> 	<p><b>大雨・洪水注意報（気象庁）</b>  <b>自らの避難行動を確認</b></p>
<p><b>1</b></p> 	<p><b>早期注意情報（気象庁）</b>  <b>災害への心構えを高める</b></p>

## ●水平避難と垂直避難

災害では早めの避難が必要です。ただし、すでに避難経路が浸水しているなど、危険が間近に迫っている状況での無理な避難行動はできるだけ避けなければいけません。そのような場合は、避難所への移動（水平避難）だけでなく、近隣の高い建物や自宅の2階といった高い場所への移動（垂直避難）を行うという判断も必要です。



## ● 洪水発生時における避難の心得



動きやすい格好で、荷物は最小限にしましょう



一人での避難は避け、近所で声をかけ合い避難しましょう



避難場所や安全な避難ルートを確認しましょう



車での避難は控えましょう



冠水した道路では車が水に浸かり、ドアが開かなくなるなど、大変危険です。また、緊急車両の妨げになったり、渋滞が発生し進めなくなったりします。特別の場合を除きやめましょう。



氾濫水は勢いが強い



洪水氾濫は、勢いが強く水深が膝程度あると大人でも歩くのが困難です。緊急避難として、高い堅牢な建物にとどまることも選択肢の一つです。



水面下は危険です

